



しっぽもひと役



【学校教育目標】やさしさと思いやりで、笑顔がいっぱい

～本物の笑顔あふれる山里小～

長崎市立山里小学校 校長 山崎直人

第75回 卒業証書授与式

3月17日、第75回卒業証書授与式を無事挙行することができました。暖かな春の陽射しに照らされて、121人の卒業生が巣立っていきました。今年度もコロナ禍ということで、内容を縮小し、在校生の参加もありませんでしたが、保護者の皆さまと3名の来賓代表にご臨席いただき、開催できたことを嬉しく思います。

先週行った予行練習では、5年生が参加し、本番さながらの緊張感のある時間を経験しました。練習後は5年生からの歌とメッセージのプレゼントがあり、双方共に感動を共有したところです。

祝辞では次のようなことを伝えました。

期待と不安を胸に中学校という新しいステージに旅立とうとする皆さんへ、最後に伝えたいことは、ただ一つです。それは「感動のある人生を送ってほしい」ということです。

今年度は、夏の東京、冬の北京で、続けてオリンピック・パラリンピックが行われました。アスリートの姿からたくさんの感動をもらいました。

けれど、感動というのはそうやって誰かからもらうものばかりではありません。皆さんの日々の生活の中にも見付けることができるのです。

「感動のある人生」を送るためには、二つの心が必要です。一つは「共感」する心です。

人の痛みが分かること、人の喜びを自分の喜びにできることです。側にいる友達や家族へ意識的に目を向けることが大切です。困っている人、悩んでいる人がいたら声をかける、頑張っている人、何かをやり遂げた人がいたら、一緒に笑顔で喜ぶ、そういう行動を意識的に行うことで、共感する心は育つのです。「友情は、悲しみを半分にし、喜びを2倍にする」という言葉があります。「共感」する心をもつことは、感動のある人生の第一歩です。

もう一つは「感謝」の心をもつことです。特別な時だけでなく、当たり前の日常を問い直すことから、本当の感謝の心は生まれます。

例えば、親だから、家族だから、ご飯を用意してくれて、洗濯をしてくれて、お小遣いをくれて、欲しい物を買ってくれるのは、当たり前。そうでしょうか。先生は子供のお世話をし、何でも教えてくれるのは、仕事なんだから当たり前、本当でしょうか。地域の人々が地域の子供を見守るって、当たり前のことでしょうか。そう言い切れるのでしょうか。もっというなら、若いんだから心臓が動いて生きているのは当たり前、毎日太陽が昇るのは当たり前、春になったら桜が咲くのは当たり前、本当に？ また、「今、日本は平和だからこれからもずっと平和に違いない」そうでしょうか？

もしかしたら、当たり前ではないのかも知れない、と問い直すことで、これまで当然だと思っていたものが、本当はすべて「ありがたい」ことだったと感謝の心が生まれます。

実は、私たちは当たり前を問い直す経験を、このコロナ禍の2年間で味わってきました。「失って初めて、失ったものの大切さを知る」と言います。コロナ禍は辛いことが多いのですが、当たり前を問い直し、本当に大切なものに気付き、「感謝」の種を見付けるチャンスでもあると思うのです。

「共感」する心と「感謝」の心を育てて、どうか121人ひとりひとりが、自分にとっての「感動のある人生」を送ってほしいというのが、私からの皆さんへの最後のメッセージです。



121名の卒業生、一人一人の未来が輝かしいものであることを願っています。